



令和4年11月 第16号 ©2022 雅友会

# 天文館に雅楽が鳴り響く

鹿児島市の天文館 電車通り沿いに新名所が誕生しました。

「センテラス天文館」です。以前はタカプラビルがあったところで、長年県民に親しまれてきました。センテラスは地上十五階で七十一ものテナントがあり、ホテルも併設されている複合施設となっています。そのセンテラスのオープンイベントの一つとして、六月に「和装フェス」が開催され、私たち鹿児島教区雅友会が出演させていただきました。

コロナ禍でこうしたイベントで演奏させていただくのは約三年ぶり、私たちも楽しみに約一ヶ月かけて練習や準備を整えてまいりました。

当日会場には溢れんばかりの観客があり、また電車通りやアーケードの方からは音色に惹かれて、また音色に吸い込まれるように続々と集まってこられ、嬉しい限りでした。改めて、

雅楽の音色に魅力があることを感じさせていただくことでした。オーケストラの管楽器や弦楽器とは異なり、気温・体温で音色が変わり、大変繊細な楽器ばかりであることに気付かされました。



またこの度のイベントは「和装協会」とのコラボレーションの時間もありました。雅友会含む別院の先生方との和装ス

タイトルのモデルさんと一緒に「僧侶ファッションショー」も実現しました。衣体は布袍から黒衣、色衣まで、お袈裟も輪袈裟から五条袈裟・七条袈裟まで身につけ登場すると、観客からまさかの拍手やきいらい声援、初めてのことでドギマギすることでした。



コロナ禍で久々の演奏活動、こうした「ご縁づくり」の活動が今後さらに展開されていくことを期待します。

## 「新制 御本典 作法」研修会に

### 参加いたしました

鹿児島教区 勤式指導員  
南薩組 廣泉寺 大八木宗司

二〇二三（令和五）年三月より京都・本願寺にてお迎えいたします『親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要』に用いる新しいお勤めとして、この度「新制 御本典作法」が制定されました。それに先立ちまして、去る八月二十四日、大塚賢司本願寺会役者をお招きし、鹿児島別院本堂にて研修会を開催いたしました。

研修のはじめに、このお勤めを制定するにあたっての思いを話してくださいました。

まず、「新制」となっておりまして、五十年前、親鸞聖人御誕生八〇〇年・立教開宗七五〇

年慶讃法要に際し「御本典作法」という音楽法要のお勤めが制定されておりますので、それと区別して「新制」となっております。

この「新制 御本典作法」の特徴は、

- ・聞いていただく専門的な声明
- ・僧侶とご門徒の皆さまと一緒に
- ・お唱えする声明
- ・伝統的な声明
- ・新しい時代の声明

この四点を念頭において制定されたそうです。

これまで本願寺で用いられてきたお勤め、作法においては、その御文が宗祖・親鸞聖人の主著である浄土真宗の根本聖典「顕浄土真実教行証文類」（教行信証）のみで構成されているものはありませんでしたが、この度のこの新しいお勤めは教行信証からすべての御文を選定し、

伝統的な声明と大衆唱和の両面を兼ね備えたものとなっております。

このお勤めには第一種と第二種が制定されており、お勤めの根幹となる「正信念佛偈」の部分は、第一種が本願寺声明の源流である天台声明において大衆唱和のお勤めとして用いられていた「和讃譜」といわれる節をもとにこの度作られたものとなっております。第二種は既に皆さまになじみのある「十二礼の節」のお勤めです。

今回の研修会ではご門徒の皆さまの参加が多かったので、特にこの第一種の和讃譜による「正信念佛偈」の練習をいたしました。

私自身は事前にCDを聞いておりましたので、正直、ご門徒の方々には難しく抵抗があるかと思っておりましたが、この度の研修会ではご門徒の方々もすぐに慣れた様子で、鹿児島別院の本堂に響く「正信念佛偈」の声に感動しながら共にお勤めさせていただきました。

鹿児島教区においても、二〇二四（令和六）年十一月に『鹿児島教区・本願寺鹿児島別院親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要』が勤められます。まだ具体的なお勤めの内容等は決まっておりますが、声明や雅楽でしか伝えられない感動もあるかと思っております。そこに向けて我々雅友会も研鑽を深めてまいりたいと思います。



（本願寺会役者 大塚賢司師）

# 『雅楽の

# 歴史的危機を

# 救え！』

二〇二〇年一月十五日に日本での新型コロナウイルス感染症の感染者が初確認されてから、早くも三年が経過しようとしています。この三年の間に、新型コロナウイルスは小ささまざまな変化を私たちの生活にもたらしました。寺院活動においても、法要・法座が中止や短縮となったり、一方ではオンラインでの配信が活用されたりと、コロナ禍でいかにお寺とご縁を結んでいただくか、試行錯誤の日々が続いています。新型コロナウイルスは雅楽界にも影響を与えています。

雅楽師の東儀秀樹さんがYouTubeに投稿した動画「雅楽の

歴史的危機！筆箆のヨシに関する署名のお願い」(二〇二〇年十月十九日投稿)では、筆箆のリードになるヨシが採れなくなっていることが伝えられました。



高槻市の東部、淀川河川敷の鵜殿(うどの)地区は、筆箆のリード部分となるヨシの一大産地です。鵜殿地区で群生しているヨシ原のヨシは、太く・弾力性に富んでおり、多くの奏者がリー

ド部分として使用しているそうです。ヨシ原のヨシをリードとして使うには、「ヨシ原焼き」という野焼きの作業が必要となります。



この鵜殿のヨシ原焼きは、地元の冬の風物詩としても有名でした。しかし、コロナ禍の状況から見学者の密集を避けるため、二年間「ヨシ原焼き」が行われず、リードに適したヨシが育た

ない状況が続きました。このままでは「雅楽の文化が終わってしまう」と危機感を感じた東儀さんは、動画を投稿し、野焼きの再開を求める署名活動を行います。

この署名活動で集まった署名は一万筆以上になり、二〇二二年一月、現地の見学がない形で三年ぶりにヨシ原焼きが開催されました。

新型コロナウイルスは、雅楽の歴史にも影響を与えると感じさせる出来事でした。ヨシ原焼きを行うためには、消防署や警察所、保健所など関係機関の許可が必要であったり、近隣住民の理解も必要であったりと大変なことも多いといえます。

ですが、地域の伝統行事として、そして雅楽の文化が続いていくために、来年も「ヨシ原焼き」が行われることを願ってやみません。

逸話『筆策の名手・和邇部茂光と名器・海賊丸』

先日『真宗事物の解説』（西原芳俊 著）という本を読んでいると、筆策の名手である和邇部茂光（わにべしげみつ）という楽人のエピソードが紹介されました。

ある時、和邇部用光（※）という楽人が、土佐から都へ船で向かっていると、安芸の国の港で海賊が襲いかかってきました。楽人である用光はなすすべもありません。殺される覚悟を決めた用光は、涙を流しながら「小調子」という曲を奏しました。すると、その音色は澄んで清く、あまりの素晴らしい楽の音に海賊たちは涙を流し、何も取らず立ち去っていきました。

（『十訓抄』意訳）

というエピソードです。

その時に吹いた筆策が、後々「海賊丸」と呼ばれるようになったそうです。

海賊たちが涙した和邇部用光の筆策はどんな音だったのだろうかと想像がふくらみます。

※和邇部茂光は、『十訓抄』では和邇部用光（わにべのもちみつ）と記述。

朋友紀行

龍泉寺

今回の朋友紀行は、霧島市龍泉寺 苅屋龍栄先生、淳慶先生、唯真先生と親子三人で雅友会に所属しておられます。

霧島連山南側の麓に位置する龍泉寺は、明治十九年の設立です。

本堂は、明治四十一年門徒の方々の手により建立されました。霧島川や周辺を田畑に囲まれたのどかな場所です。

隠れ念仏時代のお講が今でも存続し、各地区で報恩講が営まれています。

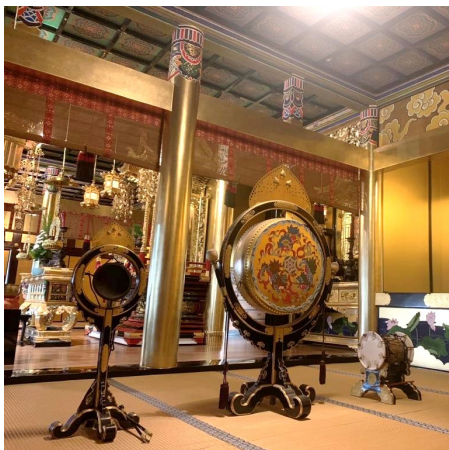


念仏洞（ガマ）が、五力所ほど点在しており、阿彌陀如来を隠してお参りしていたと言われる柱仏、昭和三十年代の聞き伝えによるご門徒の日記には、仏像持ちと言われる方が役人に捕まり刑を受けたことなど記録されています。

教えを守ってこられた先人の息づかいが聞こえてきそうです。



また寺本堂余間にございます太鼓、鞆鼓、鉦鼓や龍笛・笙・筆策は初代住職から現在まで受け継がれています。



☆雅友会へのお問い合わせ

鹿児島教区教務所内雅友会事務局

099-22210051

（担当 和田）

雅友会ホームページ

<http://www.hongwanji->

[kagoshima.or.jp/gayukkai/](http://kagoshima.or.jp/gayukkai/)